

「週30万円ナリ」

尾行させる「ダメ親」

「親の心子知らず」どころか、最近は「子の心親知らず」。なんと、子どもの素行を探偵に調査させる親が後を絶たないというのだ。「息子の帰りが遅い」「娘の態度がおかしい」と探偵会社がるまるで親の駆け込み寺のような存在になっている。今どきの親子、一体どうなっているの？

「たしかに最近、子どもにどう接しているかわからない親が増えていようです。『我が子くらい自分でしつけてください』とアドバイスするんですがね……」

ため息交じりにそう話すのは、大阪市のあるベテラン探偵だ。ここ数年、親から、子どもについての相談が増えているという。

例えば――。依頼者は、小6男子の母親（30代会社員）。息子は私立中学を目指し、毎日のように夕方5時から塾に通うが、帰りが12時近くになる。塾の授業は10時には終わっているのに、帰りが遅すぎると疑問

を持ち始めた。

ある時、母親が「なぜ遅いの」と息子に問うと、「塾に残って宿題をやっている」と答えた。現在地が確認できる携帯でも、息子はたしかに午後10時から11時半くらいまでは塾にいる。だが、おかしいことに息子は自宅で塾の宿題をやっている。口数も少なくなり、やつれて見える。一体なぜ？

そこで母親は息子の素行調査を依頼してきた。さっそく、探偵は尾行を開始。そこで発覚したのは、「知能犯」とでも言うべき息子の行動だった。「10時に授業が終わると塾

を出て、ゲームセンターで遊ぶ小学6年生

帰りが遅いと思ったら「愛人生活」

「フアフフシヨーンヘルスで働く」女子高生

携帯電話を塾のゴミ箱に隠して

「10時に授業が終わると塾を出て、ゲームセンターで遊んだり繁華街をふらふらしていた。ただ、携帯電話はカバンごと黒いゴミ袋に包み、塾のゴミ箱に隠していた。だから携帯データでは塾にいることになっていたので」（大阪市の探偵）

この調査料金は1週間で30万円ほど。息子には探偵に調査を依頼したことを隠し、父親が塾まで迎えに行くようにしたという。帰宅途中、父子で会話するようになり、息子は「お父さんとちゃんと話せるようになって良かった」と言うほどになったという。

また、小4男子でこんなケースも。前出の大阪市の探偵が言う。

「塾のある駅から自宅の駅まで移動時間は約5分なのに、携帯で位置確認すると50分近くかかっている。理由を

調べてほしいという、母親（20代主婦）からの依頼でした」

尾行を開始したところ、塾の帰りに先生に駅まで見送ってもらった後、改札に入ってからUターン。5人の男女グループで話し合わせ、駅構内の本屋で立ち読みしたり、店を見て回ったりしていたことが判明した。

「調査後、母親が子どもと話し合ったところ『気晴らしの時間がほしかった』と言われたそうです。それ以来、息抜きの時間を作ってあげていると聞きました」

日がな携帯電話で親から居場所を確認され、学校が終われば、すぐにまた塾で勉強。監視されているような、息の詰まる子どもの日常が浮かび上がってくる。

警視庁によれば、小学生の携帯電話保有率は32・4%。「保護者が子どもに携帯電話を持たせた理由」は

「家族との連絡のため」が83・9%にも上るが、子ども利用実態はといえば、見事に親の狙いをすり抜け

子どもに探偵に

仰天!

ていることが、こうしたケースからうかがえるだろう。探偵への調査依頼は小学生だけではない。

「26歳の息子が、会社でいじめられているのでは？」と母親（50代主婦）に依頼を受け、調べたところ、単に夜遊びをしていただけだった」（神奈川県鎌倉市の探偵会社「オアシス」の板橋あき代表）から、「高校生の息



子どもの心配は
尽きないが...

娘の風俗勤めを止められない親

今や探偵は、尾行や調査という本来の仕事の範囲を超え、依頼者のカウンセリングまでしなければならぬようなのだ。さらに、探偵泣かせなのが、女子高校生への調査依頼だという。

「女子高校生はタフ。なかなか家に帰らず、尾行が大変」（首都圏の探偵）

子が骨折し、母親（30代主婦）が面倒を見るうちに肉体的関係を持つてしまった。夫に言うべきか」（神奈川県藤沢市

の探偵会社「プライベート・シャドー」の坂井利行代表）というシロツキキングな相談まで、枚挙にいとまがない。

「首都圏でいえば、10年ほど前は大体、渋谷界隈にいたが、今は地域もばらばら。これといった目的もなく、一人でネットカフェや漫画喫茶に入入りしている子が多い」（坂井代表）

「プライベート・シャドー」の探偵、山本紀子さんは昨年、女子高生のこんな事実を突き止めた。

「高1の娘を持つ母親（40代主婦）からの相談でした。学校には休まず通っているが、部活やバイトをしている気配がないのに帰宅時間が遅く、外泊もある。娘の見た目や言葉遣いに目立つた変化があれば、理由を聞けるのだけれど、特になから聞くに聞けず、悩んでいると言っています」

山本さんが1カ月ほど下

校後の素行調査をしたところ、なんと彼女には50代既婚男性のバトロングがいた。

「俳優の山下真司似で、不動産会社の社長でした。彼女は、社長名義で神奈川県内の家賃7万円台のワンルームマンションを借りてもらい、学校が終わると、毎日のようにそこに寄っていたのです」（山本さん）

その一室で週に2、3日は社長と過ごし、ほかの日は友人を連れ込んでいた。調査費用は約60万円。この事実を母親に告げると絶句した。

「娘に話すべきか悩んでいましたが、夫にはとても言えない」と漏らしていましたね」（山本さん）

また、前出の板橋代表は、女子高校生風俗娘にも遭遇している。

「都内在住で高1の娘の母親（40代主婦）から、様子がおかしい」と相談を受けました。尾行すると休日に埼玉県内のファッションヘルスでアルバイトしていた」

肩
の痛み

腰
の痛み

膝
の痛み

薬が患部にいち早く浸透します。

バンテリン^{コーワ} 1.0% クリーミーゲル

製造元 興和株式会社 販売元 興和新薬株式会社 東京都中央区日本橋本町1-4-14



●肩こりに伴う肩の痛み、腰痛、関節痛、筋肉痛、腱鞘炎、肘の痛み、打撲、捻挫

(取扱説明書) <http://health.kowa.co.jp> KC-480

さらに、仕事が終わると彼女は、男性店長と退店し、そのまま店長の自宅に泊まっていた。報告を受けた母親は、「店を辞めさせてほしい」と板橋代表に懇願したというのだが、

「母親には『自分で説得してください』とビシヤリと言いました」(板橋代表)

前出・首都圏の探偵も、こう話す。

「高3女子の母親(40代)から、『娘が家を出て1〜2週間帰ってこない』と相談を受けた。調べると夜10時頃、渋谷で20代らしき男女と焼き肉屋で落ち合い、その後、一人でタクシーに乗り恵比寿の高級マンションに移

動。部屋に入ったまま翌朝まで、出てこなかったのです」

探偵が突き止めたのはそこまで。その後、母親は娘の日記やブログを読み、援助交際の事実をつかんだ。「渋谷で会った男女が幹旋者だったのかもしれない」(首都圏の探偵)

気兼ねする親、指示だけの親：

今や女子高生の愛人生活や風俗勤めなど、別に目新しい話でもないだろう。だが、我が子がそうだと知ると、どう対処したらいいのか分からない親も多いという。子どもに直接聞くこと

行し、やはりファッションヘルスで働いていることを暴いた。

「閉店後、彼女は夜中の1時頃から外食チェーンで一人でご飯を食べ、その後、コンビニでまた食べ物を買う。その足で漫画喫茶に行き、トイレで吐いていました。過食症だったようです」

もできないようだ。

子どもの素行調査を依頼する約9割は専業主婦というが、そもそも子どもと向き合う前に、大金を使っ探偵に子どもの尾行をさせる心理とは何なのか。

「子どもが何をしているかというより、何を考えているのか分からず、不安になっている親が増えています。子どもに『行つてらっしゃい』、『お帰きなさい』、『さう言えない親が多いのです』(大阪市の探偵)

平安女学院大学人間社会学部の深江誠子教授も言う。「何をすることも子どもを信用せず、一方的に指示する母親が多い。子どもは常に母の前で、いい子を演じなければなりません。心の内を相談できず、その結果、過食や拒食、果ては風俗動めに走りがちです」

ここで浮かび上がるのは、子どもに気兼ねする親と、コミュニケーションもなしに子どもに踏み込みすぎる親という両極端な姿だ。

「探偵依頼を奨励するつもりはありませんが、カネを払ってでも子どもを知ろうとする親は、まだまだでしょう。それより問題なのは見て見ぬフリをして、子どもを放っておく親かもしれません」(山本さん)

もつとも自分は何もせず、子どもの行状を安易に探偵に頼むのは、まさに『ダメ親』だろう。探偵が尾行しなれば、問題行動も分からない。親子関係が増えているということ自体、かなり深刻である。

本誌・菊地 香